



# Go-Amiko

**Informilo de  
Japana Esperantista Go-Asocio  
N-ro 164, Aprilo 2022**



## **JEGA 第41回新春囲碁大会中止**

2022年1月10日(成人の日)に東京、大崎囲碁クラブで開催予定だったの囲碁大会は、コロナの蔓延で中止になりました。2年連続の不開催で、本当に残念です。

## **Nuligita estis La 41a Novjara Go-konkurso de JEGA**

Ni planis okazigi la 41an Go-konkurson de JEGA la 10an de januaro 2022 en Tokio, sed pro la disvastiĝo de la pandemio ni nuligis ĝin. Ni ne povis havi la novjaran konkurson jame dum 2 jaroj, bedaŭrinde.

## **ハケ岳エスペラント館囲碁合宿は様子見**

ハケ岳エスペラント館囲碁合宿は、開きたいと思っておりますが、諸事情で日程を決められません。今年は9月か10月に持ちたいとは思っております。

## **Kunsido en Esperanto-Domo de Jacugatake depende de la kronvirova situacio**

Pri la Go-kunsido en Esperanto-Domo de Jacugatake, ni volas okazigi ĝin, sed pro diversaj kialoj ni ne povas decidi la daton. Eble en septembro aŭ oktobro ni povos okazigi la kunsidon.

# Rusa go-isto rifuĝis al Turkio

## 反戦訴え「ロシア難民」に

2022.3.23  
13時

イスタンブールに身をよせた

パベル・アブラアモフさん(40)



アブラアモフさんと家族(本人提供)

### 脅迫電話「娘を殺す」

【ベルリン＝桑野白】ロシアによるウクライナ侵攻以降、ロシア国内で反戦を訴えた結果、身の危険を感じて国外避難を余儀なくされる人が生まれています。モスクワから逃れ、妻と7歳の娘と共にトルコのイスタンブールに身をよせたパベル・アブラアモフさん(40)が本紙のオンライン取材に応じました。

2月24日の朝、友人か

ら「ロシアがキエフを空爆している。私はロシアを離れる」と連絡が入り、ロシアの侵攻を知りました。「ウクライナにはたさんの友人がいまもありません。戦争が始まったなんて信じられず、信じたくもありませんでした」

「以前、統計の知識を駆使して政府の不選挙の疑いを告発したアブラアモフさんの家は、放火被害にあったことがあります。『その男は『もう一度燃やす』と言ったのです。脅しは本気だと確信し、家族を守るために出国しようと決断しました」

「いまや、私も難民となったのです。アブラアモフさんは時おり顔をしかめながら、自身の体験を語り始めました。後、匿名の人物から電話がありました。『おまえはロシアを

(7面につづく)

# ロシアの反戦の声 支えて

## 国外避難のアブラアモフさん

### 1面のつづき

「到着した日は、父と電話して泣きました。大のおとなが箱こまって座って…涙が止まらなかった。もしロシアでインターネットが遮断されたりしたら、もう話すこともできませんから。10日間、ストレスでよく眠れない日が続きました。」でも、私たちは安全な場所にいる。危険にさらされた人を助ける責任があると思いました」

の都合など、急を要すると証明できないと出国できません。今後、避難はより難しくなるでしょう」

妻のアナスタシアさんは「国に残してきた両親が心配」と言いつつ、複雑な表情を完せます。「プロバガンダ（政治宣伝）を信じている両親とは対話になりません。避難すると伝えたら、夫は気がふれてしまったのだ、裏切りの者だと言われました」

アブラアモフさんは「私の心は戦争で引き裂かれた」と声を詰まらせます。「でも、ロシアに帰ろうとは思いません。子どもを絶対に取りたいのです」

現在、インターネットを通じた子どもやおとなに囲碁を教える生計を立てています。今後、オランダに亡命申請し、新たな人生を歩む覚悟です。フリーチンのしたことはウクライナ人と人道に対する犯罪です。しかし、どうもロシア人を憎まないでください。ロシアで反戦を表明して危険にさらされている人を支援し、平和のために行動してください。私たちが戦争を止めるため、できる限りのことをします」

現在、インターネットを通じた子どもやおとなに囲碁を教える生計を立てています。今後、オランダに亡命申請し、新たな人生を歩む覚悟です。フリーチンのしたことはウクライナ人と人道に対する犯罪です。しかし、どうもロシア人を憎まないでください。ロシアで反戦を表明して危険にさらされている人を支援し、平和のために行動してください。私たちが戦争を止めるため、できる限りのことをします」

これまでに18人、ジョージアやハンガリーなどへの脱出を支援しました。ただ、心配なことがあります。「陸路で出国する際、理由を聞かれ追い返される例が増加しています。親戚の医療ケアや仕事上

の都合など、急を要すると証明できないと出国できません。今後、避難はより難しくなるでしょう」

妻のアナスタシアさんは「国に残してきた両親が心配」と言いつつ、複雑な表情を完せます。「プロバガンダ（政治宣伝）を信じている両親とは対話になりません。避難すると伝えたら、夫は気がふれてしまったのだ、裏切りの者だと言われました」

Ekde la invado de Rusio de Ukrainio, kiel rezulto de apelacio por kontraŭmilito en Rusio, kelkaj homoj estis devigitaj evakui eksterlanden ĉar ili sentas sin danĝeraj. Pavel Abra Amov, 40-jara, kiu fuĝis de Moskvo kaj translokiĝis al Istanbul, Turkio, kun siaj edzino kaj 7-jara filino, respondis al la interreta intervjuo. "Nun, mi ankaŭ estas rifuĝinto." Abra Amov komencis paroli pri sia sperto, kelkfoje sulkante la brovojn.

Matene de la 24-a de februaro, amiko kontaktis min, dirante: "Rusio bombas Kievon. Mi forlasos Rusion." Mi eksciis pri la invado de Rusio. "Mi havas multajn amikojn en Ukrainio. Mi ne povis kredi, ke la milito komenciĝis kaj mi ne volis kredi ĝin." Sinjoro Abra Amov, kiu promociis Go-on en Rusio, tuj esprimis sian kontraŭmiliton kaj malaprobos de prezidanto Putin al siaj kunludantoj de Go tra la mondo per SNS. Estis reago de 600 homoj.

Du tagojn poste, anonimulo vokis min. "'Vi perfidis Rusion. Mi mortigos vian filinon.'-. Tiel mi estis minacata." Antaŭe, la domo de s-ro

Abra Amov, kiu akuzis la registaron pri fraŭdaj elektoj per sia scio pri statistiko, estis difektita de krimfajro. "La viro diris, 'Brulas denove.' Mi estis konvinkita, ke la minaco efektiviĝos."

Li petis helpon de Go-amiko en Istanbulo kaj komencis preparojn kun familio kaj amikoj. Mi serĉis flugbileton, sed mi ne povis trovi ĝin pro la inundo de rezervoj por homoj penantaj eskapi de Rusio. Fine mi sukcesis akiri biletojn kaj forlasis Rusion la 1-an de marto.

"En la tago, kiam mi alvenis al Istanbul, mi plorante vokis mian patron. Mi ne povis ĉesi plori. Se la interreto estis fortranĉita en Rusio, mi ne plu povus paroli kun miaj gepatroj." Dum 10 tagoj, mi ne povis dormi bone pro streso. "Sed ni estas en sekura loko. Mi pensis, ke ni respondecas helpi tiujn homojn en risko."

Por subteni tiujn, kiuj volas fuĝi de Rusio, mi, mia edzino kaj du amikoj fondis grupon nomatan "Konsilejo por rifuĝantoj". Ni esploras la politikan situacion en Rusio, trovas sekuran evakuan vojon, disponigas informojn pri vizoj, ktp. kaj akceptis telefonvokojn kaj tekstmesaĝojn. "Jam estis faritaj centoj da kontaktoj. Homoj, kiuj volas evakui, havas maltrankvilojn kaj senpaciencon." Ĝis nun, 18 homoj sukcesis fuĝi al Kartvelio, Hungario, ktp. Tamen, ekestas pli da malfaciloj por rifuĝi. La aŭtoritato ne permesas homojn facile rifuĝi.

Lia edzino Anastazio estas tre maltrankvila pro siaj gepatroj plu loĝantaj en Rusio. "Mi ne povas interkompreni unu la alian, ĉar ili kredas je registara propagando. Kiam mi diris al ili, ke ni rifuĝos, ili diris, ke mia edzo estis freneza kaj perfidulo." Sinjoro Abra Amov diris: "Mia koro estis ŝirita de la milito." "Sed mi ne volas reiri al Rusio. Mi certe volas protekti mian infanon." Nuntempe, mi vivtenas min per instruado de go-ludo al infanoj kaj plenkreskuloj per la Interreto. Mi petos azilon en Nederlando kaj komencos novan vivon tie en la estonteco. "Kion Putin faris estas krimo kontraŭ ukrainoj kaj la homaro. Sed bonvolu ne malami la rusojn. Helpu tiujn en risko, kiuj agadas kontraŭ la milito kaj por paco. Bonvolu agadi por paco. Ankaŭ ni faros ĉion eblan por ĉesigi la militon. "

## Apero de go-amiko Tajima 3

### 碁仇・田島さんの出現（3）

ひょんなことから10歳年下の田島さんという人と出会って、彼は毎週火曜日に、私のところへ来て、囲碁の対局をすることになった。彼はなんと東京芸大大学院終了という経歴を持つ。芸大に入るような「天才」に出会ったのは、私の人生で初めてだ。

#### 12月7日の対局

田島さんが来た。今日は、私が田島さんに2子置かせての対局で、田島さんには屈辱の日、私ははじめての2子を置かせての対局だったので、どうやって勝とうかとちょっと作戦を練った。私の第一手は隅、田島さんがもうひと隅に石を置いた後、私は天元に打った。天元作戦は、森均さんが得意としていて、それをまねてである。天元に石があると、しちょう当たりになることも多いし、上に石が伸びて行くと、役に立つことが多い。田島さんは天元打ちを嫌がっているのも都合だ。

もう一つの作戦は「三々」である。その前のNHK囲碁講座で「とりあえずビール、とりあえず三々」と言っていたので、2子のハンディを克服するためには地に辛い方が良さだろうと思い、それならまず隅を手堅く固め、そのうえで、根なしにした相手の石を攻めるのが良いと考えたのだ。しかし、結果的にはこれは失敗だった。私の石が隅に押し込まれる形になり、逆に私の浮石が攻められ、ほぼ完敗してしまった。田島さんは、4連敗の後久しぶりに勝ったのでニコニコして、囲碁のあとヨガ教室と一緒に車で行く近所の知人の家に行ったのだが、「なに、2子で勝ったって、勝ったことにならないでしょう」などと言われ、喜びも半減してしまった。それでも勝ち勝ちなので、それなりの気分で家に帰り、芸術活動も進んだことだろう。

#### 12月14日の対局

2回連続で負けると、また互先になってしまうので、今日は負けられない。それで、前回の負けを反省して、三々に入る「せこい」作戦はやめて、いつもの通りの、相手を押し付ける作戦で行くことにした。

この日の田島さんは「鼻炎」だといい、ティッシュペーパーとごみ箱をわきに置いて始終涙をかんでいた。途中には、「熱があるかも。体温計はないか」と言い、体温も測

った。結果は平熱で「コウで熱くなっていただけか」ということになった。コロナでなければよいのだが。

さて、対局は私の圧勝で終わった。「2子で負けちゃうとはな」と田島さんは悲しそうだった。出だしに隅で失敗したのが敗因だと田島さんは言ったが、私は、途中の「のぞき」だったと思った。

「のぞきにつなぐぬ馬鹿はなし」「のぞきゃばばーでもへそ隠す」とか言い、のぞくと大体はつく。以前 M さんという人がいた。この人は、のぞくと、何も考えないですぐついだ。こういう人との対局は全く面白くない。こっちはありがたいが、別の手を打ってくれば「お！そうきたか！」と、こっちも考え、別の対策を考える楽しみが出来る。相手の言うままにならない手をどう打つかが、囲碁の楽しみである。だから、まず「つがないで済ます手はないか」となるべくつがない方策を考える。今期の名人戦でも、一力挑戦者がのぞいたのに対し、井山名人はそれをつがずに別のところに打ち主導権を握り、最終局で勝利して名人位を守った。だから、「のぞきにすぐつく馬鹿はなし」が正しいのだと思う。

田島さんとの対局で、彼はのぞいてきた。私は、切られても、隅は隅で生きるだろうし、切られた方も、ダメも詰まっていない3つの石なので、自立できると考えた。結局、田島さんはそこを切る事ができず、その石は無駄な一手になり、持ち込みになった。私は、この不用意なのぞきこそが彼の敗因だと考えた。この手以降、私は有利に対局を進め、20目以上の大差で勝利した。田島さんはがっくりと頭を垂れて帰って行った。あまりに気の毒なので、柏餅を2つ持たせて帰した。

## 12月21日

田島さんは、「2子で連敗はありえない、あってはならない」と強い決意で我が家に来た。私は、やっつけて3子にしてやろうと、容赦もしない決意で臨んだ。

前と同じで、1手目、2手目と星を打ち合って、3手目、私が天元に打って開戦である。序盤で、田島さんの石を、私の石が両側から挟むような感じで展開した。田島さんは、自分の弱い石は一つで、私の弱い石は2つあるから、自分が有利だと考えていた。田島さんは私の右側の石を狙い、私は3目を犠牲にしてかろうじて半分を上へ逃がした。こうして、3つの石の塊が天元に伸びて行く。田島さんは、石を逃がそうとケイマに打った。「出切っちゃうよ」と「待った」を促すが、「いいよ」と言うので、私は出切った。田島さんの大石が私の左右の石に囲まれ、結局は死んでしまった。更に、別の大石も死んでしまい、往生際の悪い田島さんもおついに投了。「もう囲碁をやりたいなくなっ

た。もう来週は来ない」と、全く打ちひしがれてしまった。「だめだ、必ず来い」とかろうじて説得した。

彼の敗因は何か、と言えば、はっきりした失着はなかったが、無駄な手を打ったということになる。つまらないところに打ち、私がそれに構わず別に有効な手を打てば、それは1子分にあたる。そんな手が3回あったので、その時点で私は、1子置いて打ったのと同じことになる。今回も、田島さんは「のぞき」を打ったが私は構わず別に打った。結局田島さんは「のぞき」の石を活用できずに終わった。無駄な手かどうかは、その人の棋力による。その点では、私の方が棋力が上ということになる。だから3子局になっても、天元がないだけだと考えれば、また勝てそうである。

12月28日が、2021年の最終局になる。

## 12月28日

田島さんから電話が来た。「一昨日の第九の演奏会は良かったですね。手を叩きすぎて肩が痛くなり、碁石も持てなくなった。それに、オレも仕事があるから、明日の碁は休みます」という。25日に、私が属する前橋第九合唱団の第49回目の演奏会があり、田島さんには、4500円のSS席を買ってもらった。ほめられてうれしいが、何のことはない、「敵前逃亡」の宣告である。私は、星取表に「田島、不戦敗」と書いて黒丸を、ぐりぐりと塗った。ヨガの家族の二人の娘からは「あんなんじゃ、ヨメに逃げられるのも当然よね」との陰口をたたかれるのは目に見えている。かくして、2021年の囲碁対局は、私の圧勝で終わり、気分よく新年を迎えられることになった。



## 2022年1月4日

新年になった。田島さんは、「今は調子が出てきて、これまでになく創作意欲がわいてきた」と、すがすがしそうな顔でやってきて、「これ!」と、パンフを見せた。2018年11月の東京は京橋のギャラリーでやった2人展のチラシである。「なに? ノリ弁か? 政府が出す墨塗り書類か?」などと、私は口走ってしまった。「あなた、失礼だわよ、芸大卒に向かって」と妻は私をたしなめる。添付したのが、田島さんの作品である。「Hommage 蘇軾」という名前の作品である。上の黒塗りに、中国の詩人蘇軾の漢詩が下に書いてある。下はなんだか分からない。これ

で一つの作品である。Homage はオマージュという意味。田島さんも、以前は色付きの絵を描いていたのだが、何年か前から、墨の作品に関心が向き、今はもっぱらそっちの方でやっているらしい。それで我が家にあった 10 本ほどの墨を贈呈して喜ばれた。

さて、「3子じゃあ負けられないよな」と始めた戦いは、私が隅に、そして田島さんが天元に打って始まった。せこく地を稼ぐのはやめ、私は今まで通り打つことにした。田島さんが、ケイマに掛ってきたのを「つけ伸び定石」からうまいこと丸め込み、田島さんは弱い石群が3つ、私のは、余裕がある石の塊がその真ん中に一つ、これで、どれかが取れるだろうと優勢を確信した。しかし、どこでどう間違えたか、3つとも生きられたうえ、私の石が死んでしまったのである。わからないものである。ことわざ風に言えば「二兎追うものは1兎をも得ず」の更に上を行き、3兎を追って、自爆してしまったのである。

田島さんは「3子でも、勝てばうれしい」と久々に笑顔である。私も、田島さんをここで負かして「もう囲碁はやめた」と言われても困るので、私としてもまあうれしく、彼を寒風の中に送り出した。お互いに、出だしの良い正月である。田島さんの創作意欲もまた増し、今度は、白星の気分で、天元に梅干しの日の丸弁当風の絵になるのではないかと期待している。

Hazarde mi renkontis s-ron Taĵima, 70-jaran kaj komencis ludi go-on kun li. Li finis la plej prestiĝan artan universitaton, do li estas artisto. Mi neniam antaŭe renkontis tian grandan artiston, sed li estas infaneca.

Ĉiun mardon ni ludas go-on. La 7an de decembro mi ludis, donante du-ŝtonan handikapon al li. Mi provis kapti teritorion plej avida, tamen tiu strategio ne sukcesis. La 14an, mi forĵetis tiun avidan taktikon kaj ludis kiel kutime kaj gajnis. S-ro Taĵima fariĝis tre malĝoja, do kompatante lin, mi donacis dolc^aĵon al li. La 21an kaj la 28an, mi venkadis kaj li devis ludi kun 3-ŝtona handikapo. Mi estis ĝajega kaj havis tre bonhumoran novjaron.

Sed poste, ial mi malvenkadis 8 fojojn sinsekve, kaj fine mi devis ludi kun unu-ŝtona handikapo. Ĉu Taĵima kaŝe lernas Go-on ĉe iu? Ankaŭ mi ekstrejnigis min, legante go-rubrikojn en ĵurnaloj, sed la efiko ne montriĝas. Male en decembro, Taĵima venas al mi kun ĝojega mieno. Mi ĉagreniĝadas pro mia malalta go-kapablo.



# 長考派の話

佐野寛

## <長考派は、先読みの穴に>

先を読む、ということは頭の体操になり、お勧めです。しかし、囲碁のように、時間を共有する相手がいると話が違う。本人には必須であっても、相手にはそのニーズがないのだから。

2手先を読む、3手先を読む、4手先を・・・きりがいいですね。それに碁 ludo は平面2次元に拡がりますので、先読みの所要時間は2倍、3倍、4倍・・・ではなく、その「2乗倍」です。つまり4倍、9倍、16倍・・・に増大します。もしAIならば、何百手先読みでも一瞬で「正解」を計算できますが、人間には苦痛で耐えられない。

正解だけを競うならば、人間はAIに勝ち目はない。・・・高齢化はその傾向に拍車をかける。寸前に読んだ筋をすぐ忘れるから、また読み直す；無駄な長考時間だけが延びて行きます。

楽しむために碁を打ちたいければ「正解」を追求するのをいい加減に見切って「感覚」で打とう！

## <長考派へのサービス>

こちらが応手を、すぐ打ってあげるサービスは、その時間を食いつぶされるのでムダ。そこで、つぶやき作戦：

「こう打とうかな？いやこっちがいいな。やっぱりダメか？うーん、これに戻すわ」

「この手やーめた、でも腹立つなあ。あんなに考えたのに」

「あー、ムダだ、ムダだ。でも、ムダって（それも ちょっとなら）、楽しいかもね」

などとムダなつぶやきを、せっせと聞かせながら、少し時間をかけて打つ。相手が何考えてるか、不明で待たされるのは苦痛だが、もしその迷ってる経過を、逐次、解剖できたら、案外、面白いかも。

・・・こっちの作戦を露呈して見せたら、戦術的には損かも知れない。けれども、勝ちを捨てて、楽しみを得られるなら、その方が人生、得です。

相手がそれに気が付いて、黙っているのが「悪そう」「無礼だったかな」と気付いてくれれば大成功。「お互い様主義」の教育法、の勝利です。